

平成 27 年 9 月 9 日

南 の 風 1 4 6

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

アジア選手権決勝の続きです。

速攻で留意することは、パスやドリブルからの合わせのタイミングです。考えていては遅いので瞬時の状況判断になります。経験と感覚です。その一助になるのが、ボールマンとランナーと他のオフボールマンの空間把握です。何処にスペースがあるのか、ディフェンスの位置は、走るアングルはよいか、などです。(吉田選手のアシストパスは絶妙でした)そして何より大切なのは、ショットを決め切るフィニッシュです。号外Ⅱで触れましたが、本川選手と山本選手のフィニッシュは見事でした。本川選手の体を張ったフィニッシュ、山本選手のサドンストップからのショット(トラベリング?)は、本当に絶賛ものでした。DVDで録画された方は、速攻の場面をリプレーで、ぜひ見てください。ボディバランスの素晴らしさに気付くはずです。反対にフィニッシュで落とした場面も見てください。止まりきれないことや、シュートリリースが早い、などが分かります。**指導の参考になります。**

最後にオフェンスで気になったことを書きます。

今回の決勝は速攻以外では、『合わせ』(2対2や3対3)が機能したと言うより、個人個人のシュートの精度が相手を上回った感があります。中国のディフェンスも、高さはあるものの激しさは感じられず、ボールプレッシャーもあまり感じませんでした。

ここからは私見です。生意気なようですが、日本の今後の課題は、**フロントコートの5対5のオフェンスだと思えます。**渡嘉敷選手や間宮選手へのパスインが単調だった気がします。トップから入れるのではなく、45°へエントリーしてから入れるとか、逆サイドの0°からカットしてきたプレイヤーに入れて、ポストマンとのアングル取るとか工夫がほしかったです。

また、スクリーンをもっと多用すべきです。オリンピックでは、高さのあるチームが多いですから、単純にピック&ロールではいけないと思えます。エイトクロスオフェンスやフレックスカットのように、(決勝で何回かは見られました)ローポスト近辺で渡嘉敷選手や間宮選手、高田選手をスクリーナーとして使い、その後、外に出して機能させるのも一つのアイデアです。3人とも外のシュート力に安定感があるのですから。スクリーンの掛け方使い方に、もう一工夫ほしかったです。全体として、ユーザーの動きだしが早過ぎます。まだセットされていないのにユーザーが動いてしまうので、相手がスクリーンに掛からない場面がありました。それと、スクリーナーのアフターカットに目的意識がなかったことも惜しまれます。スクリーンを掛けた後、どうプレイするのも課題ではないでしょうか。

おしまいに、エントリーと合わせについて触れます。フロントコートへのエントリーからの合わせのタイミングがよくない場面がありました。吉田選手がドリブルエントリーした場面に多く見られました。

レシーバー(45°)がしっかり中を突いて、ポップアウトやボールミートすることが必要です。そしてこのパスに合わせるように、渡嘉敷選手や間宮選手がポストアップするとよいと思えます。

勝手なことを書きました。皆さんはどう思われますか。(全中報告は次号にします。)

ぜひ、オリンピックではメダルを目指してほしいと思います!!!